

【神奈川県平塚市】
端末整備・更新計画

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
① 児童生徒数	17,577	16,682	16,608	16,333	16,111
② 予備機を含む 整備上限台数	20,213	19,184	0	0	0
③ 整備台数 (予備機除く)	0	16,682	0	0	0
④ ③のうち 基金事業によるもの	0	16,682	0	0	0
⑤ 累積更新率	0%	100%	100%	100%	100%
⑥ 予備機整備台数	0	2,502	0	0	0
⑦ ⑥のうち 基金事業によるもの	0	2,502	0	0	0
⑧ 予備機整備率	0%	15%	0%	0%	0%

※①～⑧は未到来年度等にあつては推定値を記入する

(端末の整備・更新計画の考え方)

・令和2年度に端末を整備し、リース契約が満了する令和7年度に更新

(更新対象端末のリユース、リサイクル、処分について)

○対象台数：21,539台

○処分方法

・リース業者に返却：21,539台

※返却時にリース業者に対して、適切に再使用・再資源化等を行うよう働きかけを行う

○端末のデータの消去方法

・リース業者が行う

○スケジュール(予定)

・端末調達：令和8年6月末 納品完了

・旧機器処分：令和8年7月 リース業者に返却

○その他特記事項

特になし

【神奈川県平塚市】
ネットワーク整備計画

1. 必要なネットワーク速度が確保できている学校数、総学校数に占める割合（％）

- | | |
|---------------------------|------|
| （1）必要なネットワーク速度が確保できている学校数 | 45校 |
| （2）総学校数に占める割合（％） | 100％ |

2. 必要なネットワーク通信速度の確保に向けたスケジュール

（1）校内ネットワークの入口の帯域の確認及びユーザー体感調査の結果

令和6年7月に校内ネットワークの入口の帯域の確認を行った結果、文部科学省発「学校のネットワーク改善ガイドブック」に記載されている、学校規模ごとの当面の推奨帯域は確保されている状況であった。

しかし、令和6年8月に実施したユーザー体感調査（教職員を対象としたアンケート）では、「通信が遅いと感じることがある。」と回答した教職員がいた。

（2）校内ネットワーク環境の改善スケジュール

校内ネットワーク環境については、令和10年3月まで長期の保守契約（通信契約を含む）を締結している。なお、現在の通信契約の内容は、「帯域確保型、下り最大2G」となっている。

現在、校内ネットワークの入口の帯域は、当面の推奨帯域が確保されているものの、ユーザー体感調査では、「課題がある」という状況である。この状況を改善するため、保守契約が満了する令和10年4月以降に、下り最大5G～10Gの帯域確保型光回線への切替えを行うことを検討していく。また、ネットワーク機器の劣化等による通信速度の低下が発生しないよう、機器の更新を適切に行う。

以上

【神奈川県平塚市】

校務DX計画

1 校務DX化チェックリストによる自己点検結果

GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議の提言や教師を取り巻く環境整備について緊急的に取り組むべき施策（提言）を踏まえた校務DX化チェックリストに基づく自己点検を行った。

表 G I G Aスクール構想の下での校務DX化チェックリスト
(学校設置者向け) (抜粋)

No.	質問項目	回答
6	学校との各種手続きをペーパーレス化していますか。	全くしていない
16	自治体の文書管理規定等で、教育に関わる公文書のデジタル化に関する規定を定めていますか。	定めていない

上記項目を実現する上で自治体としての各規程の改定が必要であり、教育部門だけで完結しないため、各部局と連携を図っていく。

2 校務DXを推進するための施策

(1) FAXによるやり取りの廃止へ向けた検討

検討内容：学校アンケート結果から、FAXについては主に自治体外（事業者等）への利用が主な利用場面であることが分かった。そのため、送信相手がFAX受信を指定した場合を除き、メール等での対応に変えていく。

導入スケジュール：令和7年度以降に改善を進めていく。

(2) 校務支援システムの文書管理機能の導入

検討内容：電子媒体による文書の管理をすることにより、ペーパーレス化、執務室等のスペースの確保、文書の自動検索による業務の効率化が図れるため検討を進める。

導入スケジュール：令和7年度以降の導入を検討していく。

(3) 採点システムの導入

検討内容：採点フォーマットのパターン化や採点業務を効率化し、教職員の負担軽減を図る。

導入スケジュール：令和7年度以降の導入を検討していく。

以 上

【神奈川県平塚市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す姿

ICT機器を日常的に活用することにより、自分で見通しを立てたり、今の自分の学習の理解度を把握して最適な学習方法を見出したり、自ら学び直しや発展的な学習を行ったりすることを目指す。小中学校では、各学校において1人1台端末の活用が着実に進んでいる。より一層、児童・生徒が自ら学び、自ら考える力を身に付けられるように、わかりやすい授業づくりや指導方法の工夫・改善、教職員の指導力向上のための研究・研修の機会を今後も提供していく。

また、高速大容量の通信ネットワークを活用して、個別最適な学びと協働的な学びの確かな実現を目指していく。探究的な学習や体験活動などを通じ、子ども同士または多様な人々と協働しながら、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となっていくことを目指す。

2. GIGA第1期の総括

GIGA第1期は、令和2年度末までに端末と高速大容量の通信ネットワークを配備し、1人1台端末を個別最適な学びを達成するためのツールとして活用している。また、各教室に設置された大型提示装置を始めとしたICT機器や学習用クラウドサービスも併せて活用している。具体的には児童・生徒のノートを写真に撮ってクラス全体で共有したり、スピーチ練習の様子を動画撮影して活用したり、ビデオ会議機能を活用して他校と交流をしたりしている。

端末の操作方法に関する問い合わせや、端末の不具合発生時の問い合わせに対応するため、ヘルプデスクを設置しているが、多くの問い合わせが寄せられており、このサポートは今後も継続することが必要である。端末の活用が進み、利用機会が増加したことにより、端末の故障が増加していることが課題と考えている。その解決策として、端末の正しい扱い方等を児童・生徒に継続して指導することが重要である。

教職員からは、ICT活用スキルの差に加えて、児童・生徒の「情報モラルの不安」が指摘されている。このことを踏まえ、継続的に研修をおこなっていき、そして情報モラルに関する情報提供を随時行っていく。

3. 1人1台端末の利活用方策

1人1台端末の利活用計画の策定において、確かな学力と豊かな心の育ちを目標とする。小中学校において身に付けさせたいスキルや知識について明確にし、教育上有効な手立てとなるアプリケーション等を検討する。

日常的な利活用の例としては、オンライン学習ドリルや授業支援サービス等のクラウドサービスを通じた個別最適な学びについて教員が児童・生徒の学習進度や理解度を把握すること、そして調べたことをまとめ、発表する等、協働的な学びをより一層充実していくことが考えられる。教職員と児童・生徒とのやりとりだけでなく、児童・生徒同士のやりとりもより充実したものとなるように、大型提示装置を活用し、個々の意見や思考のプロセス等を視覚化する。交流及び協働学習においては、共同編集を使用し、児童・生徒同士の交流やアイデアの共有を促す。

ICT機器を適切かつ安全に使用できるように、情報モラル教育をすすめていく。Webフィルタリングを導入することで、児童・生徒が有害なサイトにアクセスすることを防ぐ。これにより端末の日常的な持ち帰り

の促進につなげていく。

また、不登校児童・生徒等への学びの保障として、オンライン学習ドリルや授業支援サービス等のクラウドサービスを活用したり、オンラインで授業の配信を視聴したりすることも有効である。加えて、児童・生徒が1人1台端末から相談へとつながる「平塚市子ども相談フォーム」を、児童・生徒の悩みや困りごとを早期発見するために今後も活用していく。学校からの情報発信をすることに加えて、児童・生徒の出欠連絡をする際の保護者の負担軽減するためにも、学校連絡・情報共有サービスを継続して活用する。

以 上